

BIBLE + MESSAGE

するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。(使徒9章18節)

ことわざに「目からうろこ」という言葉があります。辞書を引いてみると、「あることをきっかけに、今までわからなかったことが急に理解できるようになることのとたとえ」とあります。この言葉の語源は、実は聖書にあります。サウロ(別名パウロ)という人は、熱心なユダヤ教徒でした。彼は神の存在を信じていましたが、イエスが神であるとは考えていません。むしろ、偽りを語る罪人だと考えていました。そのためサウロは、イエスを神と信じるクリスチャンたちを捕え、迫害していたのです。しかし、ある日、イエスは光のなかからサウロに語りかけられました。その時、サウロは目が見えなくなってしまいます。しかし、イエスによって遣わされたアナニヤという人がサウロの上に手を置き、イエスのおことばを伝えると、サウロの目からうろこのような物が落ちて、見えなくなっていた目が見えるようになったのです。サウロがこの時、悟ったこと。それはイエス・キリストこそ主なる神であられるということだったのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アビタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前10時～10時45分 【礼拝】日曜：午前11時～12時半
【午後の集会】日曜：午後3時～4時半 【聖書研究会】木曜：19時半～21時

聖書を読んだ日本人

日本の第68代・69代内閣総理大臣を務めた大平正芳もまた、聖書を読んだ日本人の一人でした。

大平は香川県の農家に八人兄妹の三男として生まれます。子どもが多かった大平家の生活は苦しく彼は幼いころから内職を手伝い、家計を支えていました。

そんな大平が中学生になった時は腸チフスという病を患い、四か月の間、生死の境をさまよう経験をします。幸い病気は治り、彼は高松高等商業学校に進学することになるのですが、大平はここで聖書と出会うこととなります。佐藤定吉というクリスチャンが聖書講演のために学校にやって来たのです。重い病や父の死を経験していた大平は、聖書の教えに強く引

きつけられ、1929年に教会で洗礼を受けるに至ります。

その後、大平は大蔵省に入省し税務関係の役職を歴任。続いて1952年に大蔵省を退職。自由党公認で衆議院選挙に立候補し、当選。以来、11期にわたって議員を務めました。そして1978年12月7日、第68代内閣総理大臣に就任するのです。

大平は無類の読書家であり、政界きつての理論派と呼ばれたそうです。彼の蔵書は一万五千冊にも上りました。大平の政策は、それらの書籍から培われた理論や思想に裏づけられたものだったと評価されています。大平はまた、中国やアジア諸国、アメリカとの外交に携わりましたが、相手国の立場



読書をする大平



大平 正芳
(おおひら まさよし)
1910年～1980年

や文化、歴史を理解し、敬意を払いながら、関わりを持っていました。うです。

そんな大平は1980年、総選挙の街頭演説の後に体調を崩し、そのまま心不全でこの世を去ることになります。その葬儀には4000人も一般人が長い列を作ったそうです。